

[2 月度例会]

日時：2016 年 2 月 4 日 18:00～20:00 於：近畿本部会議室

テーマ：[水道事業を傍らから眺めて] ～水道記者 45 年の軌跡～

講師：日本水道新聞社編集委員・顧問 若勢憲一氏

1. 講演趣旨

水道記者生活 46 年目を迎えています。水道事業はこの間、普及率の向上から量・質の整備に向かい、予算的なピークを経て、再構築の時代を迎えています。勢いよく投げたボールが放物線を描くような軌跡を描き、地上に落ちたボールがこれからどうバウンドしていくのか、新たな始まりの時期を迎えているように感じます。水道事業は施設の老朽化や気候変動、南海トラフ地震への備えなど自然的な要因への対応のほか、人口減社会の到来、効率的な事業運営を実現するために広域化や民間活用など社会的、制度的な対応が求められています。一方では、昨年 7 月、水循環基本法の基本計画が閣議決定され、流域単位での健全な水循環の追求やその先に水行政一元化を垣間見ることのできる、思い切った制度的進展もありました。水道界では今、新水道ビジョンを道標に、持続的なサービスを維持するための努力が続けられています。課題が多岐にわたり、全体としての動きは極めて緩慢ですが、社会の発展・衛生の維持に不可欠なインフラですから、国・地方の財政動向や住民意識など様々な動向に対応しながら、関係者のさらなる努力が続けられるものと考えています。

2. 講演内容

講演は「水道事業を傍らから眺めて」と題したテーマです。昭和 45 年からの 45 年余にわたる水道記者生活の中で、感じたこと、感動したことなどを紹介しました。内容は①私の水道人生と水道事業の歩みを振り返る、②水循環基本法の成立と課題、③地下水の問題、④水道管内のウォッチ、⑤地域を支える小規模水道、⑤水害に対応した水道施設、など。水道に精通した方々を対象にした講演であるため、あまり見聞きしていないような話題を選びました。

3. 講演を拝聴して

講演者と同年代を水道・下水道業界を過ごしたものとして自分自身の流れとは違ったより幅広い流れがあったことを再認識した。又、講演者が現在から将来に向かって前向きに捉えられている事に感銘を受けた。